

【自由意見などへの回答（今市まちづくりセンター）】

Q. あいのりタクシーが使いにくい。

A. お互いにお声がけしていただくなど、まちづくり推進委員会において利用方法についてご相談もしてみてください。持続可能な仕組みを引き続き研究します。

Q. 米軍機の騒音軽減をお願いしたい。

A. 委員会としても問題意識を強く持っています。軽減が図られるよう働きかけます。

Q. 地域活動を促進するため ICT 活用に関する補助制度を検討してほしい。

A. 地域の ICT 化は様々な部分で進めていく必要があります。スマホ教室の開催にあたっては、まちづくり総合交付金等の活用も検討してみてください。

Q. 生徒が減り、部活動の実施が難しくなっている。理科教室など文化系の部活動も充実させてほしい。

A. 部活動においては地域移行が検討され始めています。受け皿づくりが急務ですが、指導者に対する報酬や安全の確保など課題は多いです。国や県の動向も注視しながら、部活動の選択肢の提供を含めた環境改善が図られるよう働きかけます。

Q. 資産管理ができない。山、空き家、土地などを国に返したい。

A. 令和 3 年に相続等の土地を手放すための制度の法律「相続等により取得した土地所有権の国庫への帰属に関する法律」が制定されています。相談は資産税課にお問合せいただきたいと思います。

Q. サロンについて、高齢者が高齢者を世話する状況なので、サポーターが必要。また、サロンのメニューにも苦勞をされていて、外部講師を呼ぶための申請手続き等も大変。5 年後、10 年後のサロン活動がどうなるか心配。サロン参加者が少なくなっている。参加者を増やすにはどうしたらいいか。サロン会場に行くための移動手段がない（免許返納等で）。地域のサロン活動の予算。

A. サロン活動を継続するために必要な支援について、担当部局とも連携しながら研究してまいります。

Q. 運動について、コロナで様々な制約もあり、運動不足になっている。運動を促すための適度なおせっかいも大事では。

A. はまだ健康チャレンジの活用を通じて、各種軽スポーツ等への取組が進むよう推進してまいります。

Q. 食について、塩分の摂り過ぎ。若者の食生活に対する意識付けが必要。食改さんとの接点も若い人は少ない。計算された食事を体験することもいいのでは（給食の試食など）。

A. 健康のために食生活の意識付けは大変重要なことだと考えています。浜田市の現状を知っていただくことも必要と考えますので、減塩の取組や現状の周知について担当部局に要望してまいります。

Q. 健康なうちはその価値に気付かない。体の健康だけでなく、心の健康も心配。

A. 心の健康を保つためには、孤立しないことや相談できる場所があることなどが大切です。相談窓口の周知や見守り活動の推進等、調査・研究してまいります。

Q. 集落営農の組織がない（5 年後、10 年後の農林業が不安）。

A. 地域一体化と必要な支援がなされるよう働きかけてまいります。

Q. 産業全般における人手不足、担い手不足に対する若者対策のうち、地元就職対策は。

A. 浜田市においては市内の高等学校に対し、雇用推進協議会などと連携して地元企業への就職支援が行われています。また、島根県立大学では卒業後県内就職につながるよう県内高校からの入学者の増加を図る「入試制度改革」を実施されたところです。

Q. 産業全般における人手不足、担い手不足に対する若者対策のうち、UI ターン対策は。

A. 都会地に暮らす方を対象とした相談会や仕事体験ツアー、ウェブサイト「働こう@はまだ」による地元企業の魅力発信など、若者の移住・定住につながる支援が行われています。また、県においても県外流出の抑制に力を入れておられます。産業建設委員会では上記の状況を踏まえ、人手不足・担い手不足に対して調査するとともに、機会を捉え委員会代表質問などで積極的に働きかけてまいります。

Q. 林業に力を入れてほしい。

A. 浜田市は面積の約 8 割に及ぶ豊富な森林資源を有しています。引き続き森林環境譲与税を有効活用し、健全な森林環境の整備や地域林業の活性化などが行われるよう調査研究を行い、機会を見て委員会代表質問等で働きかけてまいります。

※他の会場への回答は市議会ホームページに掲載しています ⇒



【お問合せ先】 浜田市議会事務局 0855-25-9800